

2002.4.17 現代日本論講読Ⅰ  
第2回「論文の基本形」(田中重人)

1. 学術雑誌とは
2. 論文の構成要素
3. 本文の記述

# 【学術雑誌とは】

## 前回のアンケート結果

- 学術雑誌を読んだことがある：  
10/38 人 (=26.3%)
- 2年生では、5/28 人 (=17.9%)

でも、「学術雑誌」ってなに？

# 【Peer review という制度】

論文を雑誌にのせる基準：

- ★ 新しい内容か？
- ★ 有用性はどの程度あるか？
- ★ 内容は正しいか？

→ 専門家の審査 (review) で決める

(教科書 p. 212; Knuth (1989: 50—59))

# 通常の審査手続き

- ★ 編集委員が審査員をえらぶ (ふつう複数)
- ★ 審査員にまわして判断を求める
- ★ 審査員が一致して「掲載可」ならそのまま掲載
- ★ 一致して「掲載不可」ならのせない
- ★ 意見が割れた場合は編集委員が判断
- ★ 「条件付」の場合は書き直して再提出・再審査

● Peer Review 制雑誌は権威が高い

- ・ 「学術雑誌」の要件のひとつ
- ・ 中間的な雑誌もおおい

● Peer Review 制雑誌の**原著論文**が論文の基本形

(教科書 p.196)

# 【論文の構成要素】

(教科書 p.201-208)

- 表題・種別・著者名・所属・日付
- 抄録・キーワード
- 本文 (図表などふくむ)
- 注
- 付録・資料
- 文献表
- 謝辞

● は必須要素

# 【表題その他】

- ★ **表題**は内容を具体的に示すもの  
短いほうが好ましい  
副題をつけてもよい
- ★ **所属**は「東北大学...」から
- ★ **日付**を必ずいれる

# 【抄録・キーワード】

- ★ **抄録 (要約)** は抄録誌・DB検索用  
(教科書 p.32, 209)  
この授業ではあつかわない
- ★ **キーワード**は DB検索用
- ★ **日付**を必ずいれる

# 【注】

- ★ 補足的な説明につかう
- ★ 本文中の文字の右肩に**注番号**
- ★ **後注** (endnote) または  
**脚注** (footnote)

# 【文献表】

- ★ 文中で参照した文献をあげる
- ★ 本文中では、文献表の番号か著者 (年号) の形式で参照する

## 【付録・資料・謝辞】

★補足的な説明で、注にまわすには大きすぎるばあい、付録・資料をつける

★研究・執筆にあたって援助を受けた場合は謝辞を

# 【本文の記述】

(教科書 p.34－41, 202－205)

## ★ 序論

- (1) 「読むべき」かどうかの判断材料
- (2) 必要な予備知識の提供

# ★ 本論

内容にしたがってセクションに分割

基本的なかたち：

- 仮説
- 材料と方法
- 分析結果
- 議論 (仮説と結果の照合)

# ★ 結び

- (1) 本論のポイントをまとめる
- (2) 将来の課題を述べる

※ない場合もある

# 【参考文献】

Knuth, Donald E. ほか; 有澤 亮 (訳) (1989) 『ク  
ヌース先生のドキュメント纂法』 共立出版。